

16. 黒毛和種去勢子牛の発育向上の取り組み

東部振興局¹⁾ 研究普及課²⁾

○畑尾洋一¹⁾、夏迫紗綾¹⁾、斉藤武志²⁾

1 背景・目的

最近の子牛市場相場は高値で推移しているが、管内の肉用牛主産地である杵築市の黒毛和種去勢子牛の取引価格は、珍珠家畜市場の平均を下回っている。

その要因として、市場出荷時の去勢子牛の日齢体重が市場平均を下回っている個体が多いことや体高と胸囲にばらつきが見られることが考えられた。

そこで、去勢子牛の日齢体重と体高、胸囲を指標にした飼養管理改善に取り組んだので報告する。

2 取り組みの内容

杵築市は農協地域事業部単位の地域で、それぞれ子牛の発育向上に取り組んでいる。

杵築地域は農協の畜産研究会員を対象に2か月ごとに研修会を行い、その後、市場出荷牛の下見巡回を会員とともに行う。研修会では振興局が市場成績の分析結果や飼養管理方法、畜舎環境対策等について説明する。巡回では、飼料給与状況や子牛の発育状況を確認しながら、参加する会員や関係者でミーティングを行っている。

また、山香地域と大田地域は、すべての繁殖農家を対象に毎月市場出荷子牛の下見巡回時に振興局が子牛の体高と胸囲を測定し、そのデータをもとに飼養管理方法の改善を指導している。

3 活動の成果

指導の結果、市場出荷時の去勢子牛の日齢体重は、平成25年度は1.04kg/日と市場平均の1.07kg/日を下回っていたが、平成27年度（4月から9月）は1.08kg/日となり市場平均と同等になった。

同様に体高 σ は、平成25年度の0.79から平成27年度には1.17となった。胸囲 σ は、平成25年度の0.62から平成27年度には0.72となり、体高と胸囲のばらつきも年々小さくなる傾向が示された。

去勢子牛の市場平均との価格差は平成25年度と平成27年度で変わらないものの、去勢子牛の発育が向上した。

4 残された課題

日齢体重、体高 σ 、胸囲 σ が平均を下回る大規模農家及び普及指導の重点農家に対して子牛発育改善指導を強化するとともに、研修会や子牛発育調査時の飼養管理指導を徹底し子牛発育の向上とばらつきの少ない子牛生産を引き続き指導する。

また、去勢子牛の取引価格が市場平均を下回っているため、今後、関係機関とその要因を分析検討し、改善に取り組み、取引価格の向上を目指す。